

ふるさと見て歩き

第39回

道標

◇道標とは

道標は、行き先や現在地を表示するため、石や木に文字で表記したもの。村や集落の境に立てられたため、境の神の信仰と結びつき、石仏や供養塔などを兼ね合わせるものが多く残っています。古い街道では今でも見かけること

がありますが、道路改修などの際に撤去されたり移動させられたりするものも多くなっています。

◇道標といえばコレ

美和、馬頭周辺には、江戸時代、常陸から下野へ向かう旅人が「はとうからすやまのりのこみち」と刻まれた道しるべを見て、「ここから先は、鳩や鶉、鳥、山鳥の通るような道で、人間は通れないのか」と落胆して来た道を引き返した、という笑い話が残っています。実際には「馬頭・鳥山・鶉子道」という意味です。民話や伝説の聞き取りの際には必ず聞かれる有名なお話です。この話は自然に囲まれた牧歌的な風景を思い

起こさせるものとして好まれ、広く伝えられてきました。しかしこの有名な石碑、当時のものは行方が分からなくなっているのです。道路が改修されていく中で石碑も移動を余儀なくされ、行方がわからなくなってしまうのでしよう。それを惜しんで後世に復元された道標を含め、現在には四基が確認されています。

(一) 伴陸峠旧道(那珂川町)



昭和四十八年六月一日建立

再建者 馬頭町長生天目順一・馬頭水戸線改修促進委員長

大武猶一・石工塚原正夫

伴陸峠は鶉子と馬頭を結ぶ標高三百メートルの峠で、風水害を受けることが多かったため、のち自民党副総裁大野伴陸により道路整備が進められ昭和三十八年に全面舗装道路が開通しました。石碑は峠を越える国道の下、那珂川町富山へ通じる旧道に建てられています。

(二) 物産センター北斗星

(道の駅みわ)

平成七年一月三十一日建立

再建者 美和村・大宮土木事務所・大宮警察署

県内で二番目にできた「道の駅」の観光資源として、交通安全の道標を兼ねて再建されました。

(三) 小田野宿



平成九年三月建立

再建者 美和村

この復元道標の隣には、文政四年一月建立の道標を兼ねた道祖神があります(左の石碑)。ここには「右 おふなち おふち おふ山だ」「左 とりのこ ばとう からす山」と刻まれており、建立の場所も当時からほとんど変わっていないとのこと。現在、小田野宿へは花立トンネルを抜けてすぐですが、このトンネルが開通したのは昭和五十三年のことでした。それまでは松沢・長沢方面、鳥山・馬頭方面、鶉子から大岩方面へ向かう道などで水戸領の村々とつながっていました。

(四) 鶉子山上神社矢又登山口



鶉子山上神社への参道は大那道道・矢又道・鶉子道・大室道・富山道・小田野道の六つの道がありましたが、現在通行可能なのは大那地・矢又・鶉子道だけです。このうち、那珂川町矢又からの登山口である矢又道にこの石碑が建っています。「はとう(う)からすやまのりのこ道」という文言以外は刻まれていないため、建立年代、建立者等は不明です。この石碑の隣には参界萬霊塔を兼ねた道標が建っています。昭和二年の銘があり、「右とりのこ村道」「左とりのこ山道」と刻まれています。

また、高部三ツ木には天保十五年(一八四四)建立の道祖神があります。この石碑は道標も兼ねていて、かなり風化が進んで読みにくくなっていますが、「右 山道」「左 ばとうからすやまのりのこ道」と刻まれているそうです(飯村尋道『路傍の石仏』平成十一年)。

いつの日か、本物の道標が見つかることを祈って、探索を続けています。皆さんからの情報をお待ちしております。

歴史民俗資料館大宮館 ☎52-1450